

日本災害看護学会 令和 6 年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024 年 6 月 27 日（木）

活動隊員：登谷 美知子

1. 活動期間

2024 年 6 月 18 日（火）8 時 00 分 ~ 2024 年 6 月 20 日（木）20 時 30 分

2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町 1 字 78 番地）

正院第一団地 仮設住宅：珠洲市立正院小中学校（石川県珠洲市正院町川尻 1 部 39 番地）

宝立町第一団地 仮設住宅：珠洲市立小中学校（石川県珠洲市宝立町鶉飼丑 部 83）

3. 石川県珠洲市の被害状況（6 月 18 日 14 時 00 分現在 石川県庁情報）

人的被害 死者：111 人 うち災害関連死：14 人 重症者 47 人 軽症者 202 人

住家被害 全壊 2065 半壊 1731 一部損壊 3094

4. 避難所の状況

【大谷小中学校避難者数】

6 月 18 日（火） 避難所登録数 27 人（不在 1 人）うち児童 3 人

6 月 19 日（水） 避難者登録数 27 人（不在 1 人）うち児童 3 人

【避難所の生活状況】

避難所責任者は不在であったため、在中していた消防団員よりお話を伺った。体育館に清風機 8 台設置されていた。避難所では、日中は 2 名が TV や新聞を見ながら過ごされていた。避難所は、片づけなどの一時帰宅者の宿泊受け入れも継続されていた。仮設トイレは下水道の復旧により 4 台から 2 台となっていた。洗濯機の利用も継続し提供されていた。

在宅避難者は、週に 1 回支援物資の調達で集まったときお互いに近況を話し合っており、また昼食は避難所での外部支援者による炊き出しを頂きに来られるとのことであった。イベント時には在宅避難者も避難所に来られ参加されているとのことであった。

5. 支援活動の実際

大谷地区 6 月 18 日（火）14 時 20 分、6 月 19 日 18 時 30 分

【避難所支援】：避難所では、隣町より大谷小中学校避難所に移動してこられた 60 代男性の方が休まれていた。お話を伺うと、糖尿病の持病をお持ちであるが自己血糖測定器を使用し血糖管理を行い、自家用車で珠洲市総合病院へ通院もされているとのことであった。隣町ではあるが、昔から大谷町の方とは交流もあるため、現在、避難所での生活で特に困ったことはないとのことであった。

【在宅避難者支援】：2 次避難者の方で一時帰宅されていた 70 代男性が外出中に体調を崩し救急搬送されたが入院には至らず、その後は大谷町の自宅で静養されていた。訪問時は回復され食欲もあると、笑顔もみられた。妻と息子も自宅にいたため、本人も交えて熱中症対策について話をした。

正院地区 6月19日(水) 9時30分 - 10時00分

【在宅避難者支援】：現地支援組織の依頼で正院町の90代独居の女性宅へ巡回訪問を実施した。訪問時は近所の方と枝豆の手入れやイモつるを洗いながら談笑中であった。震災後より敷地内の車庫で生活をされているが、車庫内は生活居住用に設備されていた。上下水道も開通され自炊、入浴、選択も可能である。週1回は長女・次女の訪問があり生活サポートを受けておられるとのことであった。かかりつけの医院にも通院できているとのことであった。

巡回訪問情報交換会にて検討した結果、自力での日常生活が可能であることから、しばらくは見守るかたちでの支援となった。

【仮設住宅集会所イベント】

n 正院第一団地 仮設住宅集会所

6月18日(火)10時00分 - 12時00分 ポチ袋作成 参加者22名

参加者は、自作のネームプレートを胸に張りお互いに顔と名前が分かるよう交流を図っていた。途中から保育園児3名が参加することで、参加者はより癒しと笑顔が見られた。またポチ袋の種類も多く、参加者はイベント時間ギリギリまで楽しみながら作成されていた。(写真1)

6月19日(水)10時00分 - 12時00分 ひまわりの種植え、健康体操+お茶会 参加者20名

お茶会では認知症のA氏も参加してくださったが、途中で参加者と言い争いになり一時退室されてしまった。双方のお話を伺い再度イベントにお誘いしたところもう一度参加していただき、その後は周囲の方の協力もあり終始笑顔でイベントを終えた。イベント終了時は2名が血圧測定の希望があり実施した。2名とも血圧手帳を持参しており、当日は150前後とやや高めであったため、いつもより高いと不安げであった。水分を摂取していただきしばらく休んだのち再測定したところ、140台となったことで安心した様子で戻られた。

ヒマワリの種は、「東日本、熊本からつながって正院町に届いた種であるから、自分たちがここでまた繋いでいくために育てないと！」と世話役の方から参加者に話があり、貴重な種をいただいたことと復興に向けての気持ちを新たに願う場面であった。(写真2)

【宝立仮説集会所イベント】

宝立町第一団地 仮設住宅集会所

6月19日(水)13時00分 - 15時00分 健康体操+風鈴作成 参加者20名

健康増進センターの担当者より、音楽を流し椅子に座りながら約30分間行われた。その後、参加者にも協力していただき、テーブルを設置し風鈴作成を行っていただいた。

テーブルごとに分かれたが、それぞれで会話が弾んでいるようで、笑い声なども交じりながらイベントを終えることが出来た。最後に、これまで、またはこれからのことについて皆さんの思いをつぶやきとして書いていただいた。仮設住宅でのこと、復興について、市の対応についてなど様々なつぶやきが書かれてあった。このつぶやきを支援に繋げていけるよう、今後も引き続きイベント支援を通し、住民の方々との交流を大事にしていきたい。(写真3.4)

【ケース会議】6月18日(火)15時30分~16時30分 珠洲ささえ愛センター

生活サポート部会、社会福祉協議会、福祉課、ケアマネージャーに加え、外部支援組織含め多職種で、事例検討会が開催され参加した。多方面からの視点と、現地ケアマネージャーからの震災前からの情報も補足され、必要な支援・ケアの提供へと繋がっていくことが出来る貴重な会議であった。

【現地支援組織からの依頼】6月20日(木) 10時30分-12時00分 13時00分-15時30分

市からの義援金申請の確認のための巡回訪問を実施した。いただいた20件のリストのうち12件を訪問した。しかし日中であったこともあり、ほとんどが不在であり2名のみ説明を行うことが出来た。支援に関する書類が多く、「何をどう申請したのかよくわからない」という状況であった。書類一式をお渡しし、不明な点は市に確認を取っていただくようお願いした。不在宅へは案内通知の資料をポストに投函した。残り8件は来週に引き継ぐ。

件数及び状況は健康増進センターに申し送りを行った

【地域コミュニティの構築を考える会】

正院第一団地 仮設住宅集会所 6月20日(木)19時00分~20時00分

講演：室崎 益輝先生 「能登半島地震の復興の現状と課題」

参加者 45名

多くの参加者が頷きながら聞かれていた。「復興基金をコミュニティ基金にしてほしい。その基金で、住民が神社を直すなど地域独自の提案を作っていくことが大事。これは県には見えない・わからないこと」というお話があった。国や県からの基金をどのように地域で生かせるかは、地域住民が主体とならないとわからないためである。また、復興のためには、土(地元住民)・風(外部:専門家など)・水(地域に密着してサポートする人)・陽(太陽:行政)が必要であることが説かれ、それぞれの課題を提示された。参加者からは、自分のモヤモヤが言語化されてスッキリした。気仙沼の港を視察してきたが、すばらしかった。気仙沼の事例から住民と行政との対立は必ずあるが、それを乗り越えることが大事であるという感想が聞かれた。(写真5)

6. 支援活動を通しての所感と課題

今回、ケース会議に参加した。健康管理を含め巡回訪問など、すべてが被災者のために行っていることではある。しかし被災者支援活動において気を付けなければならないと感じたことは、案外その方々においては日常でありこれまでは問題視されていなかったことが、外部からみれば大きな問題として映ることがある。健康問題や家族間の人間関係など、その時に見た事柄で問題が過大評価されてしまうケースもあるのではないかと危惧される。そのため、その土地の持つ昔ながらの特徴や背景、生活環境踏まえ地元の関係職種の方々とのケース会議は重要な意味を持つと改めて感じた。地域の特徴を踏まえ、一人ひとりに寄り添えるような看護・ケア支援を継続していくことが必要である。

コミュニティ再構築支援については、各避難所、仮設住宅集会場などでもイベント企画が進められている。今後はイベント開催をどのように地域住民主体へとタスクシフトしていくか、またそのイベントを支える支援の継続が必要であると感じた。さらに地域コミュニティの構築を考える会に参加し、地域住民の余力を支える・支援する外部支援と与力を引き出す支援の重要性を再認識した。

また、活動中に仮設集会所でのイベント参加への声掛けを、周囲の地域で在宅避難されている方にも行ったが、集会場に入りにくいという心情がうかがえた。もともとは同じ地域の住民で顔見知りも多いはずである。このことはイベント会場など場所の問題なのか、または震災後の生活環境の変化の影響によるものなのか、仮設住宅利用者と周囲の地域住民の様々な声を拾いながら地域をアセスメントしていく必要がある。仮設住宅利用者と在宅で生活をされている方々との地域交流をどのように支援していくかは重要なことであり、今後、コミュニティセンターの設置や交流方法の検討が進んでいくことを期待したい。



6月18日ポチ袋作成の様子(写真1)



6月19日ひまわりの種植えの様子(写真2)



6月19日風鈴作成の様子(写真3)



6月19日 健康体操の様子(写真4)



6月20日室崎先生ご講演の様子(写真5)